

ウサギとカメの トライ

原案／兼松由香

教材コンセプトシート

●主な対象

小学校5～6年

●ねらい

自分の特徴を知り個性を伸ばすとともに、友達と互いに信頼し、人間関係を築いていくこと。また、様々な集団の中での自分の役割を自覚して集団生活の充実に努められるようになることなどを学ぶ。

●取り扱うテーマ・キーワード

多様性、尊重、助け合い、個性の伸長、友情、信頼、よりよい学校生活

教材活用ガイド

●いつ

- ・年度のはじめ
- ・学級開きや班編成直後
- ・夏休みなどの長期休暇明けなど

●指導・活動時間の目安

- ・特別活動・学級活動などで1時間など

●関連

道徳…「向上心、個性の伸長」「友情、信頼」「よりよい学校生活、集団生活の充実」

特別活動…学級や学校における生活づくりへの参画

●工夫・協力

動物に例えた自己紹介を行う など

【ウォームアップ】(5分)

ラグビーのルールやポジションについての動画を視聴し、ラグビーについての基本的な知識を知るとともに、興味・関心を高める。

●活動1 (5分)

【1st TRY】自分を動物に例えて、自己紹介文をつくる。

●活動2 (10分)

【2nd TRY】『ウサギとカメのトライ』の物語を、登場人物の気持ちを考えながら読む。

●活動3 (15分)

【3rd TRY】物語を読んだことを踏まえて、考えたり話し合ったりする。

① [リオの仲間たちの気持ちになって] ボールを落としたリオにどんな言葉をかけるか (A)

② [初めてトライをしたヒカルの気持ちになって] リオになんと言うか (B)

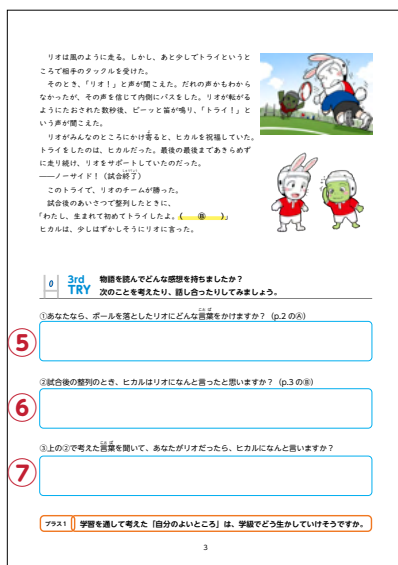
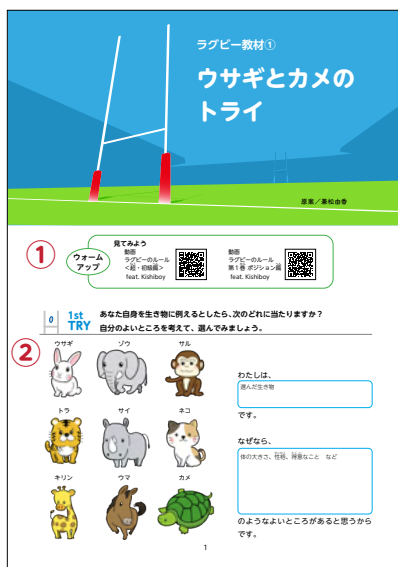
③ [リオの気持ちになって] ②で考えたヒカルの言葉を聞いてどう思うか。

※時間があれば「プラス!」に取り組むとよい。

学級のために、自分の特長をどう活かすかを考える。

① 【1st TRY】で考えた自己紹介に、学級のために生かせそうな自分の特長を加えた自己紹介文を考える。

② グループでお互いに自己紹介をする。



① 日本ラグビーフットボール協会のウェブサイトで公開している。ホワイトリスト方式の場合は、事前に閲覧できるように準備しておくことよい。

② いくつかの動物を例に出し、それぞれによいところ（または他と違うところ）があることに気づかせる（例：チーター→足が速い、カメ→水の中で活動できるなど）。

・「よいところ」は、外見や身体能力だけでなく、内面的なこと（例：優しい）も含まれることを補足する。
・例示された動物以外を例示してもよい。

③ 導入で見たラグビーのルールを思い出しながらかく読むことよい。

④ 登場人物の性別や国籍などの質問があった場合は、「物語からは読み取れない」ことを共有し、「ラグビーがみんなのスポーツ」であることを示唆する。

・文中の④⑤は、次の活動で取り扱う。

⑤ 自分が何か失敗したときにどのような言葉をかけられると安心するかを考える。

⑥ リオにはヒカルの姿が見えなかったのに、なぜリオがパスをしたのかを考える。

⑦ 決して足が速くないヒカルがどうして足の速いリオを助けることができたのか、ヒカルのトライが生まれるまでの過程を想像する。

・初めに考えた自己紹介文は、ここまでの学習を通して変更してもよいことを伝える。

・他者が自己紹介をしているときに傾きながら聞いたり、終わったあとに拍手をしたりして、認め合える雰囲気づくりをする。

アフターマッチ ファンクション

原案／森健

教材コンセプトシート

●主な対象

小学校5～6年、中学校1～2年

●ねらい

自分と関わりのある人すべてがかけがえない存在であり、相手がいるから自分もいられることに気づき、その感謝や他者の尊重について、自らの思いの表し方、伝え方などを考えるとともに、実践的な態度を育む。

●取り扱うテーマ・キーワード

思いやり、感謝、公平、公正

教材活用ガイド

●いつ

- ・学校行事（体育祭など）のあと
- ・学期末や年度末など

●指導・活動時間の目安

- ・特別活動・学級活動などで1時間など

●関連

体育・保健体育…勝敗を受け入れる
道徳…「思いやり、感謝」「礼儀」「公平、公正、社会正義」など
特別活動…学級や学校における生活づくりへの参画

●工夫・協力

国語のスピーチの授業と関連させて取り扱う など

学習活動

教材内容と指導上の留意点

※赤丸数字は縮小紙面と対応

【ウォームアップ】 (2 分)

アフターマッチファンクションについて知る。

●活動1 (5分)

【1st TRY】 自分がみんなの代表として挨拶をするとしたら、どんなことを話すかを考える。

●活動2 (15分)

【2nd TRY】『試合ではこんなことがありました』の4コマの絵と説明文を見て、話し合う。

①試合直後の気持ちを想像しながら考える。

②考えたことを、グループ内などで交流する。

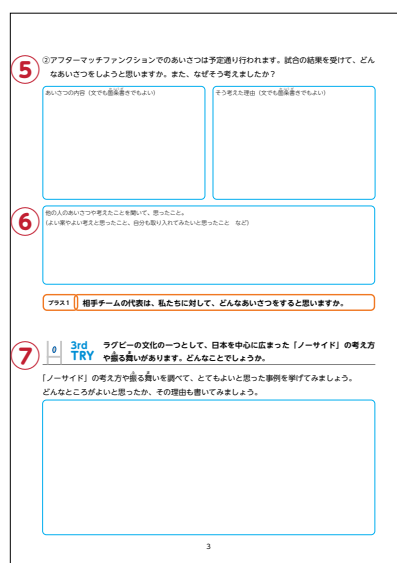
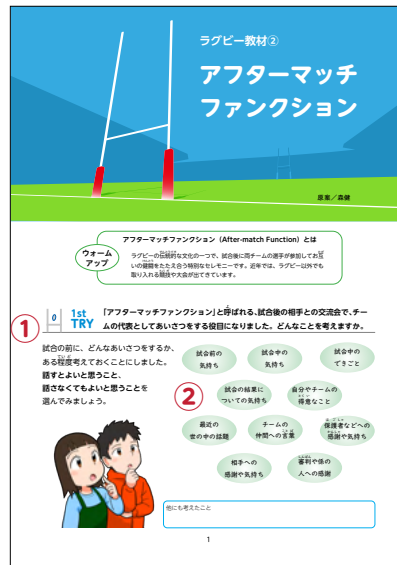
※相手（勝った方）のスピーチを考えるグループとに分けるなどして、「プラス1」に取り組むのもよい。

●活動3 (10分)

【3rd TRY】 ノーサイドについて知る。

ノーサイドの動画（1分程度）を見てから、各自やグループなどでノーサイドについて調べる。

これまでの自分を振り返るとともに、
本時の学習を生かしてこれからでき
そうなことを考える。



① これまでにスピーチや代表で挨拶した経験があればそれを思い出したり、試合やコンクールで悔しい思いや満足できなかったときを思い出したりするとよいことを伝える。

②人前で話すことが苦手だったり、経験がなくて考えるのが難しい場合でも、例示を見ながら想像できるようにする。

③特に4コマめの表情や、周りの人の言動などから、試合後の気持ちを読み取るようにする。

④主人公になったつもりで、試合終了直後にはどんな気持ちになりそうかを考えるとよい。

- 小学校体育科運動領域の「学びに向かう力、人間性等」では、「勝敗を受け入れる」ことが示されている。中学校保健体育科体育分野では、「勝敗を受け入れる」などのよい取り組みを他者に伝えることが例示されている。

⑤ 1st TRYで考えたことも踏まえてスピーチを考える。

- この段階では「スピーチできない」という回答も許容する。

⑥他の人のスピーチ案を聞いて、考えが変わったり、自分と異なる考え方に気づいたりしたことをメモする。

⑦インターネットなどを用いて、ノースайдについて調べる。事例やエピソードなどを探そうにするとよい。

- 試合後の場面は、相手を「同じゲームを楽しんだ仲間」として認めている様子であること、相手の健闘を讃えていること（「ノーサイド」はそれを表す言葉）であることに触れる。

- 他の人のスピーチ案で参考になったことやノーサイドのエピソードなどもまじえて考えるように促す。

- 具体的な場面を想定して、そのようなときには今後どのように振る舞いたいと思うかを考えさせてもよい。

ラグビーと ともに生きる

原案／加藤真也

教材コンセプトシート

●主な対象

小学校5～6年、中学校1～3年

●ねらい

ワークライフバランスをはじめ、ウェルビーイングを目指して多様な働き方と生き方が大切にされる時代において、仕事とラグビーを相乗的に向上させている人の事例を基に、より豊かな生き方について考える。

●取り扱うテーマ・キーワード

ウェルビーイング、ワークライフバランス、健康で豊かな生活、よりよく生きる喜び、自己啓発

教材活用ガイド

●いつ

- ・「キャリア・パスポート」の作成前
- ・進路指導の前後など

●指導・活動時間の目安

- ・特別活動・学級活動などで1時間
- ・総合的な学習（探究）などの導入など

●関連

保健体育…スポーツへの多様な関わり方、スポーツの多様な楽しみ方 など
道徳…「向上心、個性の伸長」「勤労」「よりよく生きる喜び」 など

●工夫・協力

キャリア教育の題材として扱う、地域の同様に活躍している人の協力をあおぐ など

学習活動

教材内容と指導上の留意点

※赤丸数字は縮小紙面と対応

【ウォームアップ】(2分)

今回の事例にあたるデュアルキャリアについて知る。

●活動1 (5分)

[1st TRY] 仕事をしながらスポーツを続けている人は、その生活にどんな魅力や意義を感じているか、想像する。

●活動2 (20分)

[2nd TRY] インタビュー記事を読む。

※ぜひ時間をとって、「プラス1」に取り組むとよい。

ラグビー教材③
ラグビーと
ともに生きる

1 ① **デュアルキャリア**
デュアルキャリアとは「2つの職業」という意味で、キャリアは仕事の種類などを含めた働き方を指しています。両方、両方の職業について、両方の仕事に専念するよう働き方を考えるデュアルキャリアが広がっています。

2 ② **1st TRY**
運動部活動などでスポーツをしている人は、学校を卒業すると、やめてしまう人も少なくありません。仕事をしながらスポーツを続けている人は、どんな魅力や意義を感じているのでしょうか。考えてみましょう。

3 ③ **マオさんのグループでは、探究的な学習で、**
①キャリア (仕事・事業・仕事など) について
②生涯スポーツについて
について取り組むこととし、地域の人へのインタビューをしたいと考えています。
仕事の後や休日にラグビーを続け、両立している人が身近にいることがわかり、その人にインタビューをさせてもらえることになりました。

③ **三浦 龍輝 (みすみ りゅうき)**
1994年生まれ。高校時代にラグビーを始め、その後大学でもプレー。ラグビーチームのある企業に就職し、仕事とラグビーの両方に取り組む。入社4年でラグビー選手を引退し、仕事に専念。しばらく経ち、ラグビーチームで活躍する仲間と再会するうちに、もう一度ラグビーに関わりたいと思い、ラグビーと仕事の両立を模索し、

4 ④ **2nd TRY**
三浦 龍輝さんにインタビューをしました。読んで、感動したこと、大切なと思ったこと、ほかの人に伝えたいと思ったことを書き出しましょう。

Q1 **どんな仕事に就いていますか?**
京都にある製造業という会社で、経営企画課に属しています。私はその中で工場などの業務や設備を整える仕事をしています。パソコンに向かって作業が多いですが、人の手とコミュニケーションをとることが多い仕事でもあります。同じ会社で、たくさんの仲間がいます。みんなが仲良く、チームワークよく働いています。

Q2 **ラグビーはどのくらい練習していますか?**
平日夜に2回、休日は午前中から午後まで練習しています。平日1日の試合や練習、あとの日は個人トレーニングをしています。私生活の時間としては、同じように、会社員として生活しているのと変わらないと思います。ラグビーが趣味で練習しています。ラグビーが大好きで、みんなと一緒に練習して、チームワークよく働いています。ラグビーが大好きで、みんなと一緒に練習して、チームワークよく働いています。

Q3 **とても大変な練習ですが、どうして続けることができていますか?**
ラグビーは、チームスポーツの中でも最も人数が多い15人制のスポーツです。でも、ラグビーはチームワークが命です。仲間がいてくれるから、自分も頑張ることができます。また、ラグビーはチームワークが命です。仲間がいてくれるから、自分も頑張ることができます。また、ラグビーはチームワークが命です。仲間がいてくれるから、自分も頑張ることができます。

Q4 **ラグビーでつづいた精神とは、どんなものですか?**
ラグビーは、チームスポーツの中でも最も人数が多い15人制のスポーツです。でも、ラグビーはチームワークが命です。仲間がいてくれるから、自分も頑張ることができます。また、ラグビーはチームワークが命です。仲間がいてくれるから、自分も頑張ることができます。また、ラグビーはチームワークが命です。仲間がいてくれるから、自分も頑張ることができます。

5 Q5 **他にラグビーでつづいた精神が、生かされている場面はありますか?**
ラグビーには、ラグビー精神というものがあります。試合で大切にしている精神も5つの言葉で表すことができます。「意欲」「情熱」「結束」「規律」「尊重」の5つです。これらは、仕事をする上でも大切な精神だと感じています。

6 ⑥ **三浦さんが教えてくれた、具体的なエピソード①**
仕事をしながら、他の人から教わったことの中で印象に残っています。私生活という生活が、ある程度は安定しているように、その間は、仕事に専念して、ラグビーを続けることができました。ラグビーは、チームワークが命です。仲間がいてくれるから、自分も頑張ることができます。また、ラグビーはチームワークが命です。仲間がいてくれるから、自分も頑張ることができます。また、ラグビーはチームワークが命です。仲間がいてくれるから、自分も頑張ることができます。

7 ⑦ **三浦さんが教えてくれた、具体的なエピソード②**
ラグビーには、ラグビー精神というものがあります。試合で大切にしている精神も5つの言葉で表すことができます。「意欲」「情熱」「結束」「規律」「尊重」の5つです。これらは、仕事をする上でも大切な精神だと感じています。

8 ⑧ **三浦さんに、ありがとうございました!**

●活動3 (18分)

[3rd TRY] インタビュー記事を用いて、まとめ方を学ぶ。

プラス1 **ラグビー憲章について、調べてみましょう。**
「意欲・情熱・結束・規律・尊重」の5つの精神は、選手、指導者、トレーナー、メディア、ファン、スタッフ、関係者、ファンなど、ラグビーに関わる全ての人々に共有してほしい精神です。全員が心を一つにして行動すれば、必ず One Team となるための最も重要な要素となると考え、各関係者で。

7 ⑦ **3rd TRY**
インタビューをいろいろな方法でまとめて、他の人に伝えましょう。

8 ⑧ **まとめ方の例**
感動したことや、大切なと思ったこと、人に伝えたいと思ったことを書き出す。
手帳① 感動したことや、大切なと思ったこと、人に伝えたいと思ったことを書き出す。
手帳② 感動したことや、大切なと思ったこと、人に伝えたいと思ったことを書き出す。
手帳③ 感動したことや、大切なと思ったこと、人に伝えたいと思ったことを書き出す。

①小中学生では、スポーツ選手といえ、テレビで見られるようなプロの選手や競技しか思い浮かばない場合も多い。この教材を通して、スポーツを続けながら他の仕事に従事するなど、さまざまな関わり方で、好きなことを大切に生きていく人が多くいること、そのように生きることができると気づけるとよい。

②地域で同様の活躍をしている人がいる場合は、その方に協力をお願いしてみるのもよい。

③探究的な学習の進め方を念頭において、事例的に進めるとよい。

④インタビュー記事を、直感的によいと感じた言葉や繰り返し出てきた言葉などに線を引ながら読む。

⑤ラグビー憲章について、意識して読むようにする。

⑥グループ内やクラス全体への発表などでラグビー憲章への関心を高めつつ、インタビューへの感想を交流する。

⑦A4 用紙1枚やプレゼンテーションソフトなどを用いて、まとめる。その際、他の人に伝わるようにまとめることを意識する。

⑧同まとめを用いて、将来について想像し、仕事とそれ以外の時間をどう使うかなどにも広げて考えてみる。

⑨同様の(または異なる)テーマを基に、インタビューしてみたい人を想定したり、実際に協力を求めるためにどうするかなどを考えてみるのもよい。

ラグビーを 見に行こう

教材コンセプトシート

●主な対象

小学校 1 ～ 2 年

●ねらい

公共の場でスポーツ観戦するとき、またスポーツをプレーするとき、共に観戦、プレーする人の気持ちを考えることが大切であることに気付き、約束やきまり、マナーを守ろうとする判断力を育てる。

●取り扱うテーマ・キーワード

思いやり、感謝、助け合い、礼儀(マナー)、よりよい学校生活

教材活用ガイド

●いつ

- ・ 学期のおわり
- ・ 学校行事（運動会など）の前後

●指導・活動時間の目安

- ・ 特別活動・学級活動などで1時間など

●関連

体育…規則を守り誰とでも仲よく運動をする 勝敗を受け入れる

道徳…「善悪の判断、自律、自由と責任」「親切、思いやり」「礼儀」「規則の尊重」

特別活動…学級や学校における生活づくりへの参画

●工夫・協力

学級や学校における生活をよりよくするための話し合いや、実践と関連させて取り扱う など

学習活動

教材内容と指導上の留意点

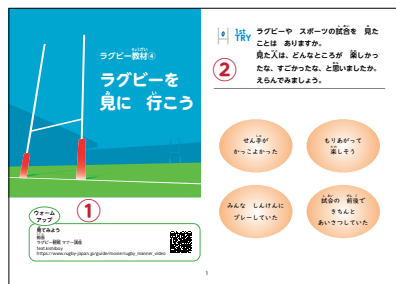
※赤丸数字は縮小紙面と対応

【ウォームアップ】（3分）

動画を見て、ラグビー観戦のマナーについて知る。

●活動1（5分）

【1st TRY】ラグビーやほかのスポーツの試合を見たときの感想を伝え合う。



①日本ラグビーフットボール協会のウェブサイトで公開している。ホワイトリスト方式の場合は、事前に閲覧できるように準備しておくことよい。

②ラグビー観戦経験がない児童も参加できるように、さまざまなスポーツについて問う。観戦はテレビやネット動画などでもよい。

・すぐに感想が出ない場合は、選択肢を選ばせてもよい。

・ここではあまり時間をかけないようにする。

●活動2（10分）

【2nd TRY】『ラグビーを見に行こう』の絵を見ながら、気付いたことを挙げる。

●活動3（20分）

【3rd TRY】①気付いたことを、いいと思うこと、よくないと思うことに分類する。

②よくないと思うことについて、どうすればよくなるかを考える。



③導入で見たラグビーの観戦マナーを思い出すように促す。

・動画と同じところや違うところがないか聞くとよい。

④なぜいいと思ったのか、よくないと思ったのか、理由も問う。

・よいことをしたり、マナーを守ったりすると、自分や周りの人がどんな気持ちになるか考える。

【プラス1】学習を通して、これからの生活に生かすことを考える。

3rd TRY 気づいたことを、いいなと 思うこと、よくないなと 思うことに、分けてみましょう。

4. いいなと 思うこと

よくないなと 思うこと

5. どうすれば、よくなるか、 思いますか。

プラス1 絵を、見る 学習のうを、通して、どんなことが、これからの 生活に、生かせるかどうか。

⑤ラグビー場に限らず、公共の場で過ごすときに大切にしたいことを考える。

・学校生活でも生かそうかなことは、いか、など補足の質問をするとよい。

タグを取ったら 大きな声で

教材コンセプトシート

●主な対象

小学校3～4年

●ねらい

気持ちよくゲームを行うためにルールがあることに気づき、互いに尊重し合い、相手に伝わるコミュニケーションを取ろうとする態度を養う。

●取り扱うテーマ・キーワード

勇気、助け合い、礼儀、コミュニケーション、規則の尊重

教材活用ガイド

●いつ

- ・年度のはじめ
- ・学級開きや班編成直後など

●指導・活動時間の目安

- ・特別活動・学級活動などで1時間など

●関連

体育…規則を守り誰とでも仲よく運動をする

道徳…「希望と勇気、努力と強い意志」「礼儀」「友情、信頼」「相互理解、寛容」「規則の尊重」

特別活動…学級や学校における生活づくりへの参画

●工夫・協力

体育のゴール型ゲームの授業と関連させて取り扱う など

学習活動

教材内容と指導上の留意点

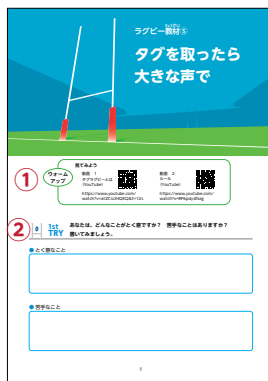
※赤丸数字は縮小紙面と対応

【ウォームアップ】(5分)

タグラグビーの様子やルールについての動画を視聴し、興味・関心を高める。

●活動1 (5分)

【1st TRY】自分の得意なことと苦手なことを伝え合う。



①日本ラグビーフットボール協会の「タグラグビーオフィシャルウェブサイト」で公開している。ホワイトリスト方式の場合は、事前に閲覧できるように準備しておくといよい。

・「1タグラグビーとは」と「2ルール(00:00～03:00)」を視聴して、タグを取り合いながら行うゲームであることを確認する。

②ラグビーもポジションごとに得意なこと、苦手なことがあり、仲間同士で得意・不得意を補い合っていることを伝えらるといよい。

●活動2 (10分)

【2nd TRY】『タグを取ったら大きな声で』の物語を読む。

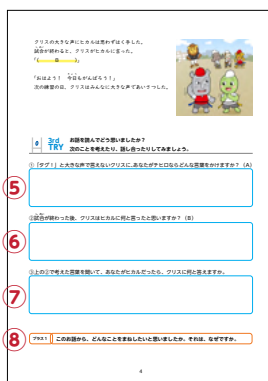
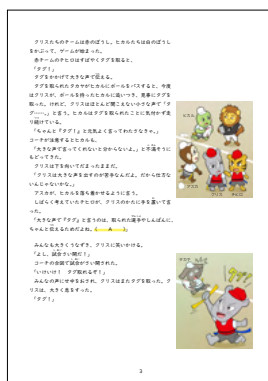
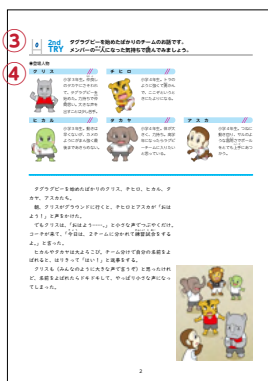
●活動3 (15分)

【3rd TRY】物語を読んだことを踏まえて、考えたり話し合ったりする。

①「チヒロの気持ちになって」「タグ!」と大きな声で言えないクリスにどんな言葉をかけるか。(A)

②試合が終わった後、クリスはヒカルに何と言ったと思うか。(B)

③「ヒカルの気持ちになって」②で考えた言葉を聞いて、クリスに何と答えるか。



③導入で見たタグラグビーのルールを思い出しながら読むといよい。

④読み終わった後、登場人物紹介を用いながら簡単に物語の内容を確認する。
・文中の(A)(B)は、次の活動で取り扱う。

⑤苦手なことに向き合う困難さや、それを乗り越えるために必要な心を考える。

⑥クリスが2度目にタグを取ったとき、なぜ大きな声を出せたのかを考える。

⑦自分が苦手なことに向き合ったとき、どんな言葉をかけられるとうれしいかを考える。

・児童に登場人物を演じさせてもよい。

⑧クリスだけでなく、ほかの登場人物の言動から真似したいことを考えてもよい。

【プラス1】これまでの自分を振り返ると共に、学習を通して、これからの自分に生かしたいことを考える。